



ウクライナにおける
武力紛争の拡大・激化
から1年：
赤十字・赤新月運動のこの1年
間の対応



提供 : Carla Guananga / IFRC

© 国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）および赤十字国際委員会
(ICRC) 、ジュネーブ、2023年

icrc.org | ifrc.org

赤十字・赤新月運動の活動実績

ウクライナにおける武力紛争激化から1年



58

の
各国赤十字・赤新月社が
対応に関与



124,828人

の
ボランティアが
参加



6,526

の
各国赤十字・赤新月社
支部が対応



110万人

に
保健医療支援を
提供



1億9900万スイスフラン

の
現金給付を
実施



180万人

に
居住支援を
提供

グローバルな対応

この1年間、赤十字国際委員会（ICRC）・国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）・各国赤十字社をはじめとする赤十字・赤新月運動の構成組織（国際赤十字）は、ウクライナ、その周辺諸国、また暴力行為から逃れてきた人々の避難先となった世界の多くの場所での人道支援ニーズに対応してきた。これはまさにグローバルな対応であり、58の各国赤十字社が現地・国外から資金援助および物資支援を、影響を受けた人々に提供してきた。一部の赤十字社は、国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）による緊急救援アピールを通じた資金提供をもとに、国内の対応を行った。

連盟および多くの赤十字社の支援を受けたウクライナ赤十字社、そしてICRCは、ウクライナにおいて対応の最前線で支援を続ける。市民の避難誘導、応急手当、精神保健・心理社会的支援の提供、医療施設の支援、安全な飲料水の提供、現金給付の実施など、どのような支援を行うにあたっても、赤十字・赤新月社の職員は揺らぐことのない献身的な姿勢によりウクライナ危機に苦しむ人々を助けることに尽力した。

このような姿勢は、現地の赤十字ボランティアとICRCチームが危険な状況で活動を続ける、最前線に近いエリアでは不可欠であった。ICRCは大勢の民間人が危険から避難するための安全な経路を確保し、ICRCの独自の任務に従って、捕虜を訪問した。これらの訪問の目的は、捕虜の収容状態や処遇をモニタリングし、彼らの家族が望む情報を収集して、最低限必要な救援物資を提供することであった。

世界の国々は、ウクライナの国境を超えて暴力行為から逃れてきた人々を歓迎し、積極的に受け入れた。各国赤十字社は引き続き人々をそれぞれ異なるルートに沿って支援し、人々が新しい居住地に落ち着くのを支援している。このため連盟は、紛争から逃れてきた人々の支援に国内で対応する42の各国赤十字社における戦略的・実務的な連携を支援している。これらの社の多くが、これまでに連盟によるアピールを通じて資金を受け取っている。

武力紛争の初期に避難した人のなかには、あらゆるリスクを負って故郷に戻った人もいる。また、一時的とはいえ、「家」と呼べる新しい居場所を求めて複数回移動した人もいる。これから避難しようとする人々は、



提供：ウクライナ赤十字社

武力紛争の最初の数か月間に避難した人々よりも、さらに弱い立場に置かれるがちである。多くは高齢者で、移動すること自体が困難であったり、移動のための経済的手段が限られていたりする。このタイミングで避難を余儀なくされる人々もいるが、そのような人たちも実際に避難する際には非常に大きな困難に直面することが予想される。

同時に、数か月も前に避難した人々のなかには、蓄えが尽き、困難に直面している人々がいる。ウクライナに残っている人は日々、明日の安全を心配しなくてはならない計り知れない不安に直面している。

この広範囲に及ぶ人道危機が2年目を迎えるようとしているなかで、国際赤十字は人々の変化する多様なニーズに応えるよう、引き続き適切な支援を行っていく。赤十字の活動は、我々が支援している人々によって導かれている。この国際的武力紛争への対応における課題は前例のない規模であるため、我々は対応にあたり、柔軟性を維持し、影響を受けた人々のニーズに応えることができるよう、当事者に関わり続ける必要がある。



提供 : Yevgen Nosenko / ICRC

この概要は、国際赤十字・赤新月運動がどのように、12か月にわたり、この国際的な武力紛争の影響を受けた数百万の人々の生活を支援したかについて説明する。

影響を受けた地域全体での対応を大幅に拡大することから始めて、国際赤十字が一丸となって、影響を受けた人々を支援してきた。赤十字は、必要とされる限り必要な支援と保護活動を続ける。

拡大し、変化する人道支援ニーズ

過去12か月間において、数百万の人々がこの国際的武力紛争による壊滅的な影響に苦しんできた。影響を受けた人々の多くは2014年から紛争に耐えてきた人々である。約600万人に上る人々がウクライナ国内で避難し¹、780万人を超える人々が国境を超えて避難した²。大規模な避難に加えて、武力紛争により多くの民間人の死者および負傷者が生まれ、想像を絶する苦しみと、家、学校、医療施設などの重要なインフラに対する壊滅的な被害が生じた。

この武力紛争により、欧州では数十年間経験したことのない規模の人の移動が発生した。ウクライナの人口の約3分の1が避難した。去年初めの最初の大規模な避難以降周辺諸国への移動は減ったが、不確実な武力紛争の状況によって、家に戻ることができる（少なくとも一時的に）人々がいる一方で、依然として住んでいる場所から避難せざるを得ない人々がいる。

しかしながら、これらの数字から被害の真相を読み取ることはできない。息子を探す母親の苦悩や、不確実な状況に直面して家族が日々下さなければならない困難極まる決断など。

ウクライナの多くの人々は、破損した家や、極寒をしのげない建物に住んでいる。国内には電気、水道水、暖房が使えない地域もあり、多くの人々が暖を取り、水や食料を得るために苦労している。

このようなニーズはウクライナ国内にとどまらず、欧州および世界の多くの国に広がっており、人々は過酷な体験から非常に大きなストレスと心理的な悪影響に直面している。それに加えて、人々は自国とは異なる国および文化の中で、「新しい日常」に適応しながら、新しい言語を学び、厳しい経済情勢において収入を確保している。このため、精神保健・心理社会的支援は引き続き、ウクライナ国内にとどまっている人、他の国へ避難した人の両方に対する、赤十字としての優先対応事項となる。

¹ IOM、避難追跡マトリクス：ウクライナ（2022年12月31日時点）。



提供 : Victor Lacken / IFRC

国際赤十字による支援実績

(2022年12月31日)



物資など基本的支援

1,450万人に提供*

基本的支援、国内避難民の避難所への支援、特別な配慮を必要とする人々のための施設の改修、等



給水・衛生促進

1,060万人に提供*

水および衛生施設・衛生用品等の支給及びアクセスの改善。



保護活動

245,000人に提供

保護、ジェンダー及び包摶に関する活動、チャイルド・フレンドリー・スペースの設置

- 約**4,000回**、家族間で連絡が取れるよう情報提供（離散家族支援）。
- 1,090名**のスタッフ、ボランティア、関連職員が、性的搾取と虐待の防止および保護、子どもの安全保護について研修を受けた。



居住支援

180万人に提供

住居／避難所改修の支援、一時的集団宿泊施設で過ごす人々、ホストファミリーに受け入れられた人々、賃貸支援を受けた人々への支援



現金給付

1億9,900万スイスフランを
120万人に提供*

多目的現金給付を通じた、基本的ニーズへの対応支援、賃貸支援、保健医療、避難所に関する支援。



移動・避難支援

805,000人に提供

人道支援サービス拠点での物資・及び情報提供等、避難誘導、公的手続きの支援を提供。



保健医療支援

110万人に提供

医療施設、精神保健・心理社会的支援へのアクセス、医薬品および医療機器の支援、一次医療を提供。

この1年間の活動の概要は、ウクライナ、周辺諸国、武力紛争の影響を受けた人々を支援する他のすべての国における国際赤十字の総合的な実績と活動を示したものである。

データソース：国際赤十字・赤新月社連盟・広範囲指標追跡ツール（ホスト各国赤十字・赤新月社のデータ）およびICRCのデータ（2022年12月31日）。

* 報告データは、重複しない受給者の人数ではなく、支援を受けた累計人数が含まれる。

ウクライナにて

赤十字は、2022年2月に国際武力紛争が激化するずっと前から、ウクライナ全土において人々を支援している。ウクライナ赤十字社は、連盟の支援を受け、人道支援を提供するための組織的開発を行いながら、100年以上、地域で活動している。ICRCと共に、ウクライナ赤十字社は2014年以来、最前線で紛争による影響を受けた人々を支援している。

ウクライナ赤十字社は、現地支部、ウクライナで活動する14の他の各国赤十字・赤新月社、資金や現物支援を提供するその他多くの組織間の連携において、ICRCおよび連盟と共に、重要な役割を果たしている。

赤十字は、避難民および紛争の影響を直接または間接的に受けた人々を支援している。この支援には以下が含まれる。

- ・関連省庁との協力により、人々が必要なものを購入できるようにするための現金給付支援を提供
- ・心理社会的支援、紹介・情報提供、傾聴の実施
- ・自宅にとどまっている弱い立場にある人々、特に高齢者や障がい者など、移動に制限がある人々に対するケアとサービスの提供（訪問看護）
- ・損壊した住居、医療施設、その他の必要不可欠なインフラの修繕
- ・食料、衛生用品セット、毛布、寝具キット、厳冬期に特に重要な発電機と燃料など、必要な救援物資の提供
- ・医療施設への医療機器および医薬品の提供
- ・紛争の影響を受けた地域からの民間人の避難誘導、捕虜および民間人収容者への訪問

昨年はウクライナにおいて人々の強さと回復力（レジリエンス）が見られたが、今後も継続的な支援が不可欠である。武力紛争がたとえ今日終わったとしても、紛争が人々、住居、重要なインフラにもたらした壊滅的な被害は、今後回復に何年も要することになる。



提供：ウクライナ赤十字社

ウクライナにおける支援実績



物資など基本的支援

1,170 万人

に物資など基本的支援を提供

120 万人

に衣服と家庭用品を提供

160,000 人

国内避難民の避難所への支援を通じて人々の状態が改善



居住支援

140 万人

が適切な暖房を利用できるように支援

54,000

の住居および集団避難所に修繕支援を提供するとともに、現金給付支援、材料、工具、修繕作業を提供



7,305 人

のボランティア



移動・避難支援

252,000 人

に移動支援を提供

10

の人道支援サービス拠点において国内避難民を支援



保健医療支援

328,000 人

に精神保健支援を提供

88,000 人

に応急手当の訓練を提供

24,000 人

が改善または復旧された医療サービスを利用できるようになった（特に巡回診療を介して）



保護活動

10,500 人

が安全な経路を通じて避難

16,000 人

が武器汚染に関する啓発セッションに参加



現金給付

1 億 3,700 万

の現金給付を実施

スイスフラン

に多目的現金給付支援を提供

170

の医療施設に医薬品、医療機器、物資および機器の支援を提供



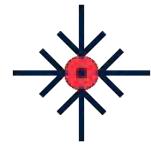
給水・衛生促進

106 万人

の清潔な水へのアクセスを改善

290 万人

に衛生用品を提供



トピックス： 巡回診療を通じた 保健医療へのアクセス

長引く国際的武力紛争により、ウクライナの既存の医療システムは計り知れないほどひっ迫している。新型コロナウイルス感染症の流行による2年間に及ぶ医療需要の増加に対応してきた後、紛争の影響による700件以上攻撃によって医療システムは打撃を受けた。¹これに加えて、国内の多くの場所における避難民の増加、医薬品や物資の不足、医療従事者にも生じている紛争の影響などの問題がある。

ウクライナによる一次医療サービスを支援し強化するため、ウクライナ赤十字社は国際赤十字の支援のもと、国内のさまざまなエリアで巡回診療を運営している。これらの巡回診療が稼働しているエリアは、武力衝突が現在起きている、または最近起きたことにより医療インフラの破壊が拡大していたり、国内避難民の大量流入により医療システムにさらなる負担が加わったりしたエリアである。

¹ 世界保健機関、[Surveillance System for Attacks on Healthcare](#) (2022年12月29日)





提供: **Stephanie Murphy** / カナダ赤十字社



ミトラシフカで

ミトラシフカ村の人々は、ドラビフにある最寄りの医療施設に行くには、酷いでこぼこ道を約25分間かけて移動しなければならない。快適ではない移動に加えて、ドラビフの街へのバスは武力紛争の始まりとともに止まり、車を持たない人にとっては必要な医療を受けることがあります困難となつた。バスの運行は再開したが、村の救急・助産ユニットのリーダーであるヨナはこのように語った。「患者が医者の元へ來るのではなく、医者が患者の元へ行く必要があります。」

それが現状となっている。ウクライナ赤十字社のチェルカーシ支部は、カナダ赤十字社の支援を受け、州全体で4つの巡回診療を運営している。これらの巡回診療は医療スタッフ、医療機器、医薬品を届けて、国内避難民を支援するとともに、長距離の問題や住んでいる場所で医療を利用するのに何らかの困難を抱えている地元住民を支援している。

村の750人の住民のうち、半数以上が高齢者だ。武力紛争による避難民の約60人が現在この村に滞在している。以前はもつといたが、多くの避難民が別の地域へと移動した。避難民のほとんどが幼い子どもや高齢者のいる大家族である。

巡回診療では、人々は血圧や血糖値のモニタリングなどの基本的な治療やテストを受けることができる。ヨナが見る多くの疾病は、心臓、血圧、コレステロールの問題などの慢性疾患である。彼女は去年の2月に武力紛争が激化して以来、これらの疾病が増えていることを確認している。

「人々はここで必要な支援を受けることができます」とヨナは言う。「彼らは自分を気にかけてくれる人がいることを感じることができます。」





コシブで

ウクライナ南西部の山岳地域で、ウクライナ赤十字社は2022年11月から、イヴァノ＝フランキウスク州にあるコシブから巡回診療を運営している。これらの山岳地域に住む人々は、必要な支援を得るために病院や薬局でさえ行く機会がない。

日本赤十字社の資金援助を得て、巡回診療がこれらのアクセスが困難なコミュニティに通い、診察、薬の処方、専門家への紹介を含めた、必要な一次医療を提供している。これらの支援を受けている人々のなかには、武力紛争によって国内避難した人々がいる。

ドネツク州のスラビヤンスクから来た患者のナタリアは、糖尿病と高血圧の治療のため、巡回診療を利用している。彼女は紛争の激化後すぐに避難し、現在は国内避難民のための集団避難所に改修された学校で暮らしている。

巡回診療の看護師の（同じく）ナタリアは、彼女が出会う多くの人は家を破壊され、「帰る場所のない人もいる」と言う。基本的な医療に加えて、チームは患者の話に耳を傾けることも行っている。「これが彼らが必要としていることなのです」とナタリアは説明する。「このようにして、彼らは誰かに必要とされていると感じます。」

彼女は治療を提供した、ある孤児の男の子についてこのように回想する。「彼は榴弾で重傷を負っていました…ですが、彼はとても楽観的でした。彼から学ぶことは多くあります。私たちはこのような人々を、薬の提供や診察、そして言葉かけなどできる限りのことをして支援しています。」

提供 : Anastasiia Shvets / IFRC



トピックス： ドネツクとルハンスクでの身体的および精神的なリハビリテーション

2022年2月に武力紛争が激化する前から、すでにドネツクおよびルハンスクの地域は、長年にわたる激しい紛争により武器・兵器汚染に関する大きな問題を抱えていた。

そうした地域に埋まつたままの地雷が人々にもたらす影響は何年間も続いている。庭に植物を植える、子どもが屋外で遊ぶ、舗装されていない道路を歩くといった、単純な日常的な行為でさえ、致命的なレベルのリスクを抱えている。

2016年、ICRCは地元のチャリティー団体、New Lifeを支援し、身体的リハビリテーション機器をジムに提供した。この無料の施設は、この地域で障がい者が利用できる数少ない施設の1つである。

またICRCは、オーソペディックシューズ（整形靴）工房の改装、プロテーゼおよび整形器具用の原材料の供給、スイミングプール用リフトやその他の特殊アイテムの寄贈、さまざまな文化イベントやスポーツイベントの開催を通じて、障がい者の社会包摂を促進した。

ヴァレリアはこれらのイベント、特に毎年行われるマラソンに熱心に参加している選手で、ICRCからの支援による恩恵を受けて自身のビジネスを立ち上げた。



提供 : Anastasia Alyokhina / ICRC



ICRCの支援によってネイリストになった車椅子 子レーサー

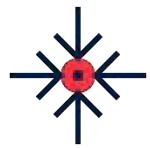
「現在は、ドネツクの現状によって、残念ながら多くのスポーツやイベントが開催できません」とヴァレリアは言う。彼女は、ただ座って物事が起きるのを待っているタイプではない。

ヴァレリアは以前にICRCから身体的リハビリテーションサポートを受け、これまで障がい者のミニマラソンで複数回優勝している。現在、彼女は、ビジネスの設立を推進するプロジェクトの支援を受けている。

「職場にはすべてが揃っていました」と彼女は言う。「ドライヒーターや専門的な機器を含めて、必要な備品や滅菌装置など、必要なものがすべて提供されました。これはネイリストにとって夢のようなことです。」

「ICRCのおかげで、自分の今後の発展と自己実現のための新しいスキルを身に付けることができました。私はすでに自分のクライアントを持っているので、やめるつもりはありません。重要なのは、諦めないことです。最初にうまくいかなくとも、うまくいくまで何度も挑戦すべきです。」





トピックス： 捕虜の権利と国の義務

国際的武力紛争が勃発し人々が交戦国の支配下に置かれた時、ジュネーヴ四条約が全面的に発動する。最も弱い立場の人々の保護を義務付けるこの条約は、残虐行為に対する防護手段として機能し、戦争とはいえやりたい放題は許されないという考えを再確認する。しかしこれらの普遍的な禁止事項に焦点を絞ると、ジュネーヴ条約がどのように実施されるかという、もう一つの中心的な特徴があいまいになる。ジュネーヴ条約は交戦国の支配下に置かれたすべての人々に対し、全員を同じように扱うのではなく、それぞれの異なる状況を明確に考慮して、支援と保護を提供する。

最も明確な例は、ジュネーヴ第三条約に記された捕虜に関する条約だろう。この条約は、敵国の捕虜となった軍隊のメンバーを保護することを第一の目的としている。民間人スタッフ、従軍記者、供給業者、その他の軍隊のメンバーになることなく軍隊と行動を共にする者も、ジュネーヴ第三条約によって提供される保護の対象となっている。



提供 : Alyona Synenko / ICRC

まとめ：

- 捕虜の尋問は強制的に行ってはならない。抑留当局に対しては、氏名、階級、登録番号のみ回答することが求められ、それ以外は強要されない。
- 捕虜は敵対行為の終息まで収容所に抑留することができるが、厳重な監禁や投獄は禁じられ、あたかも犯罪者のように扱ってはならない。
- 捕虜の生活環境は、抑留国の軍隊構成員のそれと同等のものでなくてはならない。

第三条約は紛争当事国に、「国家情報局」を設け、捕虜に関する情報を収集し、ICRCの組織である中央追跡調査局に伝えることを要求する。この制度は、敵国に拘束された捕虜について説明することで、捕虜が行方不明となることを防止し、指定された方法で捕虜の家族に情報を提供できるようにする。この条約は、捕虜の移送、本国送還、中立国における収容に関する問題についても規定している。条約のルールの遵守を促進するため、第三条約はICRCに捕虜がいる可能性のある場所に自由に訪問し、証人なしに捕虜に面会する権利を与えていた。



提供 : Alyona Synenko / ICRC

危機の影響を受けた地域全体

危機の影響を受けた地域の各国赤十字社は、2022年2月24日に国際武力紛争が激化した時に最初に対応を行った組織の中に含まれる。国境を越えるために続々と列に並ぶ大勢の人々 – 主に女性、子ども、高齢者、障がい者 – に対し、連盟の支援を得て地元の赤十字チームが直ちに行動を起こした。地元のチームはこれまで、情報の共有、食料や衣服などの救援物資の配付、医療の提供、精神保健・心理社会的支援の提供を行っている。

ウクライナを離れることを選択した多くの人々にとって、これは第一歩でしかなかった。故郷に戻りたいとしばしば思う一方で、現在新しい国で生活している人々は、どこに住んで、働き、学校に通い、家族の世話をするかについて、重要な選択に迫られている。何よりも、新しい国に定住することは、社会ネットワークおよび支援ネットワークを再構築することを意味する。

避難民を受け入れているすべての国が対応を行っているが、各国には独自のニーズや課題がある。多くの国は、医療システムが依然として新型コロナウイルス感染症のパンデミックからの回復途中にあるなかで、インフレの影響に対処している。武力紛争の激化から1年が経過した今、引き続き住む場所を必要としている人がいる一方で、食料や医薬品といった基本的な必需品を必要としている人もいる。

欧州および世界中の国を通過して移動する人々が増えるに従って、各国赤十字・赤新月社はそれぞれの場所で対応にあたった。連盟ネットワークは膨大なニーズを満たすために拡大され、最も弱い立場にある人々を優先して現金および引換券の支援、医療および精神保健支援を提供するとともに、特に厳しい冬季を通じて避難所を提供した。連盟の緊急救援アピールは現在17か国に対応しており、58の各国赤十字・赤新月社を連携させてウクライナ国内および欧州全体で支援を行っている。ホストコミュニティに対する支援と避難民の社会包摂は、コミュニティにおける結束を促進するための優先事項である。

国際赤十字は引き続き、紛争によって離散／行方不明となった家族の再会・連絡回復支援に優先的にあたると同時に、行方不明者の家族が直面する可能性のあるその他の課題に対応する。



提供: Egor Tetiushev / モルドバ赤十字社



ベラルーシ

	189 人	のボランティアが参加
	5,600 人	に精神保健支援を提供
	6,900 人	に物資など基本的支援を提供
	5,600 人	に衛生用品を支援

ハンガリー

	6,749 人	のボランティアが参加
	160,000 人	に物資など基本的支援を提供
	60,000 人	に衛生用品を支援
	16,000 人	に精神保健支援を提供

モルドバ

	1,103 人	のボランティアが参加
	33,300 人	に物資など基本的支援を提供
	14,100 人	に精神保健支援を提供
	3,800 人	に一時的集団避難所／宿泊施設の提供

ポーランド

	8,200 人	のボランティアが参加
	817,000 人	に物資など基本的支援を提供
	2,450 万 スイスフラン	の現金給付を実施
	45,000 人	に現金給付を実施

ルーマニア

	7,056 人	のボランティアが参加
	2,090 万 スイスフラン	の現金給付を実施
	14	の人道支援サービス拠点を設置
	309,000 人	に物資など基本的支援を提供

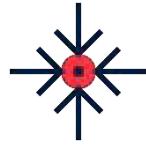
ロシア

	20,000 人	のボランティアが参加
	307,000 人	に物資など基本的支援を提供
	157,000 人	に現金給付を実施。（51,000 人々への医薬品引換券の提供を含む）
	20,000 人	に精神保健支援を提供

スロバキア

	2,785 人	のボランティアが参加
	27,000 人	に公的手続きの支援を提供

	285,000 人	に物資など基本的支援を提供
	24,000	の保健医療支援を提供



トピックス： 現金給付を通じた自由と尊厳

現金はこの武力紛争によって生じる膨大な人道支援ニーズに対応する赤十字・赤新月運動の中核を占めており、この現金給付支援プログラムは連盟史上最大規模となることが予想される。

120万人を超える人々がこれまでに現金給付を受け、それにより自分たちや身内に必要なものを自由に購入することができた。

緊急時や災害時の多くの場合、人々の選択肢は大幅に制限されている。市場が正常に機能している地域においては、現金・引換券給付により、人々は自分たちに最も必要なものを決定する自由、尊厳、独立性を得ることができる。家賃、食料、医薬品に現金を使用する人もいれば、より快適な生活のために現金を使用する人もいる。最も重要な部分は、影響を受けた人々の選択を可能にし、同時に地元の経済とビジネスを支援することである。

連盟とICRCはウクライナ赤十字社および欧州全体の各国赤十字・赤新月社と協力し、影響を受けた人々に必要な現金給付支援を行っている。これには、受給者が必要なものに自由に使用できる現金給付支援と、家賃や住居の修繕など、特定のニーズに対する支援が含まれる。



提供 : Carla Guananga / IFRC



提供 : Corrie Butler / IFRC

ハンガリーで

「私たちが春にハルキウから避難した時、娘はまだ赤ちゃんでした。あれからほぼ1年が経ち、娘はすっかり大きくなりました」とアリサ*は彼女のそばで遊んでいる、もうすぐ2歳になる娘、ルチア*を指して話す。ブダペストまで1週間の移動の後、彼女はハンガリー赤十字社のボランティアからさまざまな支援についての情報を入手した。

現在、彼女と娘は、ハンガリーのセゲドにある女性と子どものための避難所で生活している。「この赤十字の避難所にいると安心できます。紛争が続いている間、家族と離れていることは辛いです。毎日家族のことを心配しています」と彼女は話す。

ハンガリーでは、ハンガリー赤十字社が連盟の支援を得て実施している現金給付プログラムが、アリサのような母親を支援している。「赤十字から受け取った資金で、自分たちの冬用ジャケットを買いました。寒くなってしまったが、ウクライナから冬用の衣類を持ってこなかったので」と彼女は話す。

アリサは、彼女と娘がハンガリーのこの場所で安全に、また配慮されて生活できることは幸せだと述べる。「赤十字が存在することは良いことだと思います。赤十字がなければ、私はどうしたらよいかわからなかつたでしょう」と彼女は話す。

*プライバシー保護のため、仮名を使用。





提供 : Anastasia Sharkova / IFRC

ロシアで

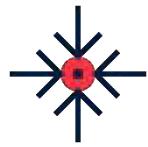
78歳のゾーヤ・イヴァノヴナは、ウクライナのハルキウの自宅から避難を余儀なくされた。「何週間も外に出ることはできませんでしたが、家にとどまっているのも恐ろしいことでした。住んでいたアパートのすべての窓が壊れていきました。」

彼女は2022年4月にロシアのヴォロネジに到着した。「ここにたどり着くのに2日以上かかりました。背負い袋1つだけを持ってきました。」

連盟とその他のパートナーの支援を受け、ロシア赤十字社はゾーヤ・イヴァノヴナのような人々に、食料、衛生用品、また毛布やベッドリネン、枕といった生活用品を提供して支援している。最も弱い立場に置かれた人々には、ICRCから緊急ニーズに対処するための資金援助が提供されている。

冬が近づき気温が下がるにつれ彼女は暖かい衣服や靴の入手について心配している。ロシア赤十字社は彼女に、最も必要な衣料品を購入できるよう、引換券を提供した。





トピックス： 離散家族の再会・連絡回復支援

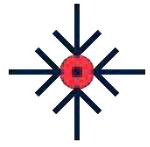
2022年3月、ICRCは、ジュネーヴ条約で規定されている中央追跡調査局（CTA事務局）の中に、ウクライナにおける武力紛争によって離ればなれになった人や行方不明となった人に特化して対応する部署を発足させた。

今までに、CTA事務局は、大切な人と連絡が取れなくなった家族に4,000件近く情報を提供している。CTA事務局は中立的な仲介役として、ウクライナおよびロシアの国家情報局と協力し、相手国の捕虜となった人々の情報の伝達を促進している。この目的は、捕虜の保護を強化することと、彼らの身に何が起きたのかをその家族に知らせることで、家族の心配を緩和することである。

40の各国赤十字・赤新月社と17のICRC代表部によるグローバルネットワークは、現在CTA事務局と連携して、この武力紛争の影響を受けた家族を世界中で支援している。



提供 : Anette Selmer-Andresen / IFRC



トピックス：

人道支援サービス拠点を通じて サービスにアクセスするための中立 的な安全スペースの提供

連盟の人道支援サービス拠点は長年にわたって世界各地で運営されている。これらの中立的で安全な場所は、安全を求める人々に人道支援サービス、情報、および支援を提供する。

昨年、各国赤十字・赤新月社は、国際武力紛争により自宅から避難した人々を支援する取り組みのなかで、**460**の人道支援サービス拠点を設立した。これらの拠点では、人道支援の原則に基づいて、法的地位、国籍、目的地・経由地にかかわらず、支援を提供する。また、移動中の人々の支援だけでなく、弱い立場にあるホストコミュニティにも必要に応じて支援を提供する。

数百万の人々が避難するなか、赤十字職員は食料や温かい飲み物、情報、物資、基本的な医療および心理的応急処置、そして他の支援への紹介を提供している。このようなさまざまな種類の支援がコールセンターを通じてこれまで提供されている。安全を求める人々の流れが緩やかになるとともに、これらの場所は国内避難民および難民が新しい場所に定着できるよう支援する追加サービスを提供するように進化した。



提供：ハンガリー赤十字社



提供 : **Nora Peter / IFRC**

スロバキアで

「ルシアは、医者を探すことからATMでのカード利用まで、すべてのことで私を手伝ってくれます。まるで本当の家族のようです」と、ホストファミリーを抱きしめながらリュドミラは言います。

彼女は2022年3月に家族と共にスラビヤンスクにある自宅を離れ、スロバキアのポプラトにやってきた。一家は友人を通じてルシアの連絡先を受け取り、彼女に連絡を取ったところ、彼女は受け入れに同意した。

「私たちの家は2階建ての大きな家です。ウクライナからの人々を助けようと思いました。彼らが私たちの家にいてくれて、嬉しいです」とルシア・マルコヴァは話す。

ルシアは、連盟の支援を受けているスロバキア赤十字社から資金援助を受け取っている、スロバキア国内の42のホストファミリーの一組である。また、同じ居住支援プログラムを通じて、ウクライナからの72の家族が家賃を支払うための支援を受けている。

「ポプラトの人道支援サービス拠点を通じて、私たちは6世帯のホストファミリーを支援しており、これまで20の家族が滞在先を見つけるのを手伝いました」と、スロバキア赤十字社の人道支援サービス拠点管理者のルシア・クラクヴァは説明する。

居住支援と現金給付支援に加えて、スロバキア全体の15か所の人道支援サービス拠点は情報、精神的応急処置、地元の他の組織への紹介、物資支給、そして障がい者へのその他のサービスも提供している。

「リュドミラは助けを必要としているとき、私のところに来ます。私が助けを必要としているときには、私は赤十字に来ます。ここには素晴らしいチームがいて、積極的に人を助けようとしています」とルシアは話す。



最も弱い立場にある人々を 保護する

紛争時においては、性的搾取や虐待、ジェンダーに基づく暴力、人身売買といった、保護に関する問題のリスクが高まる。国際赤十字は、ウクライナおよび紛争の影響により人々が避難した場所において、これらの問題の防止と対応に特別な注意を払っている。

連盟は保護ポリシーを整えており、これには性的搾取と虐待の防止、児童の保護、連盟のすべての階層における職員およびすべての場所に適用される行動規範が含まれる。これには、スタッフおよびボランティア、コンサルタント、パートナー、契約業者、サプライヤーも含まれる。

また連盟は、各国赤十字・赤新月社と緊密に連携し、保護に関する問題の防止、発見、対応を行うためのスタッフおよびボランティアの能力向上に取り組んでいる。影響を受けている地域に保護、ジェンダー及び包摶の担当を置くこと、啓発資料をさまざまな言語で作成すること、また他の人道支援組織と連携することが、対応を行っている国全体で防止活動を強化する重要な要素となっている。

ICRCは性的搾取と虐待の防止に全力で取り組んでいる。これはICRCの全スタッフにとっての倫理上および契約上の義務であるだけでなく、ICRCがサービスを提供しようとする人々の信頼を維持するために不可欠な方法でもある。ICRCはすべての活動においてフィードバックメカニズムを構築し、被害を受けた人々がICRCに連絡できるようにしている。行動規範に対する違反が疑われる場合には、その匿名かつ安全な報告チャネルを通じて誠実に報告するよう、ICRCはICRC内外の人に呼びかけている。



提供：ベラルーシ赤十字社

支援を受けている人々を 中心に据える

対応が真の効果を発揮するには、支援を受けている人々の関与が必要である。これを実現するにあたって、我々は支援対象者と会話し、フィードバックを提供してもらう機会を提供するとともに、すべてのコミュニティメンバーを尊重し平等なパートナーとして扱っている。我々が支援している人々の多様なニーズ、優先事項、選択などが、我々の活動の指針となる。

有意義なコミュニティ参画、オープンで誠実なコミュニケーション、フィードバックの収集と対応のメカニズムを通じて、我々は支援を受ける人々をよりよく理解することができ、その理解に基づいて対応を調整することができる。我々は経験から、コミュニティの関与がより効果的な対応につながり、影響を受けた人々が必要としているもの（我々が必要と考えるものだけではなく）を的確に提供できるようになることを知っている。

精神保健に関するニーズへの対応

ウクライナにおける武力紛争は、国内全体の人々および故郷を離れた数百万の人々の精神保健に、計り知れない影響を与えている。

これを受け、連盟と34の各国赤十字・赤新月社は、赤十字史上最大規模の精神保健・心理的支援を行っている。研修を受けた赤十字職員が、避難ルートに沿った人道支援サービス拠点、コールセンター、その他さまざまな接点を通じて、サイコロジカル・ファーストエイドを提供している。また、この危機に対応している人々への対応も優先的に行われている。これらの人々の大半も、進行中の紛争の影響を受けているためである。



提供 : Hugo Nijentap / IFRC

世界全体



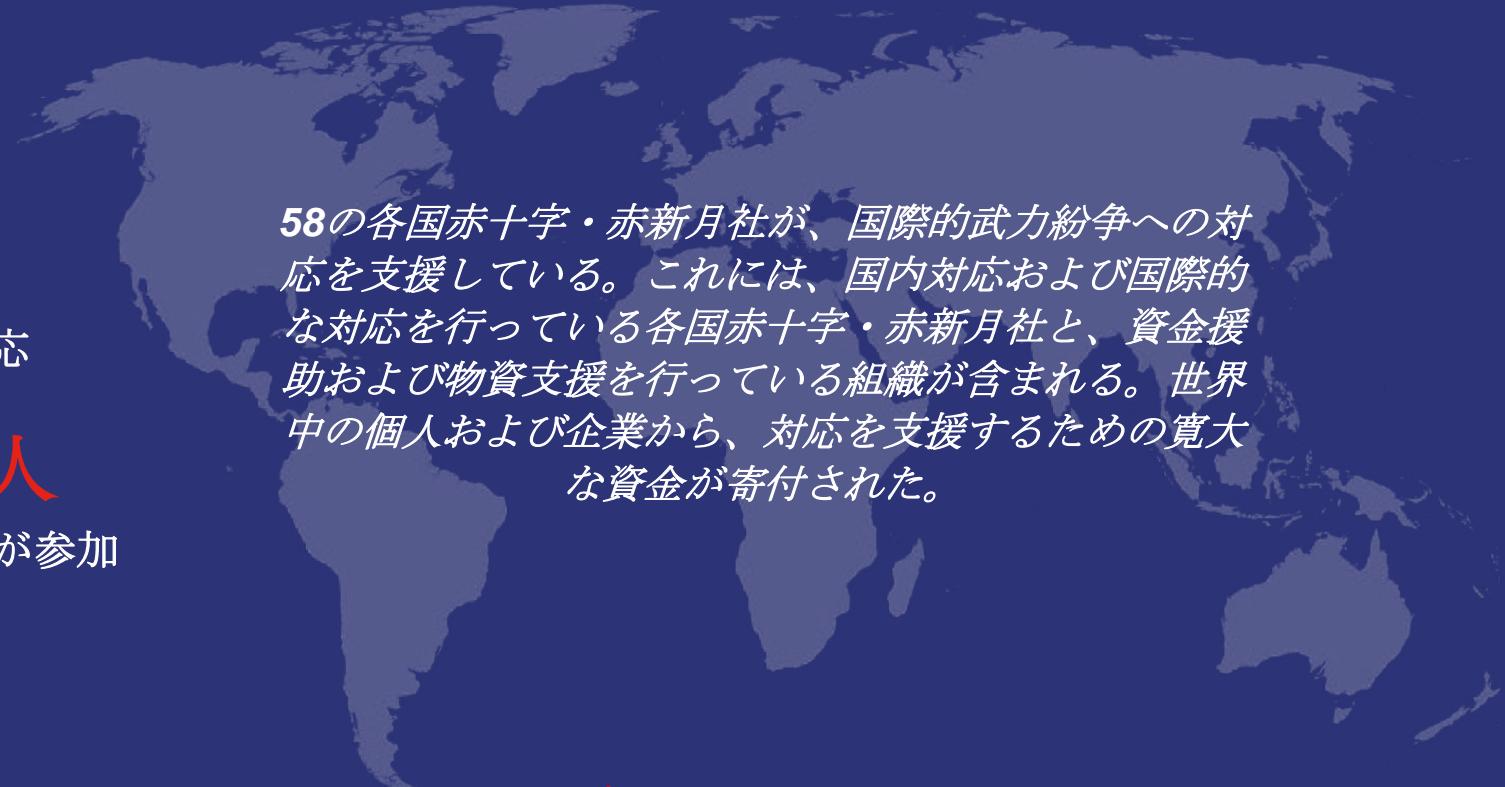
58

の各国赤十字
・赤新月社が対応



124,828人

のボランティアが参加



ウクライナ赤十字社
アルバニア赤十字社
アメリカ赤十字社
アンドラ赤十字社
アルゼンチン赤十字社
オーストラリア赤十字社
オーストリア赤十字社
ベラルーシ赤十字社
ベルギー赤十字社
イギリス赤十字社
ブルガリア赤十字社
チリ赤十字社

クロアチア赤十字社
キプロス赤十字社
チェコ赤十字社
デンマーク赤十字社
エストニア赤十字社
フィンランド赤十字社
フランス赤十字社
ドイツ赤十字社
ギリシャ赤十字
ハンガリー赤十字社
アイスランド赤十字社
アイルランド赤十字社

イタリア赤十字社
日本赤十字社
カザフスタン赤新月社
ラトビア赤十字社
リヒテンシュタイン赤十字社
リトアニア赤十字社
ルクセンブルグ赤十字社
ニュージーランド赤十字社
ノルウェー赤十字社
パラグアイ赤十字社
フィリピン赤十字社

ポーランド赤十字社
ポルトガル赤十字社
モナコ赤十字社
モンテネグロ赤十字社
北マケドニア共和国赤十字社
中国紅十字会
ジョージア赤十字社
モルドバ共和国赤十字社
ルーマニア赤十字社
シンガポール赤十字社
スロバキア赤十字社

スロベニア赤十字社
スペイン赤十字社
スウェーデン赤十字社
スイス赤十字社
カナダ赤十字社
オランダ赤十字社
セルビア赤十字社
大韓赤十字社
ロシア赤十字社
タイ赤十字社
トルコ赤新月社
ベトナム赤十字社

各地のストーリー



提供：ルーマニア赤十字社

ルーマニア

オレーナと子どもたちはウクライナのドニプロ出身であったが、4月の終わりにブカレストに定住した。娘が9月に学校での勉強を開始した時、オレーナはルーマニア赤十字社の多文化センターを紹介された。彼女の娘、ヴラディスラヴァはそこで体操教室に参加しており、自閉症の息子、オレクサンダーも他の子どもたちと交流することができている。彼女は「息子の行動に大きな違いが見られる」と語る。

オレーナは現在、同センターでボランティアをしており、息子の成長を見届けながら、ウクライナから避難した他の子どもたちを支援している。



提供：Tereza Vujosevic
/ モンテネグロ赤十字社

モンテネグロ

イレーナと彼女の3人の息子は、激化する紛争が自分たちの住む街に及んだ初期の段階に、ウクライナのクレメンチュークから避難した。7日間に及ぶ長い移動の末、モンテネグロに到着し、バールという自治体に落ち着いた。そこには支援を提供する地元の赤十字社支部があった。イレーナは、赤十字社のボランティアがいなければ、彼女と家族の生活はさらに困難なものになっていたと話す。



提供：スペイン赤十字社

スペイン

スペイン赤十字社は、空港および鉄道駅で特別な受け入れサービスを提供している。これには、人々の受け入れ、別の場所への移動支援、赤十字社のリソースに関する詳細情報の提供、必要に応じて別の組織への紹介などが含まれる。

また、スペイン赤十字社はチャイルド・フレンドリー・スペースも運営しており、ウクライナからの避難民が社会に溶け込めるよう支援している。

中立・公平な人道支援活動

赤十字・赤新月運動の紛争時における人道支援活動の根幹にあるのは、中立性、公平性、独立性といった基本原則である。これらの原則は、我々が救援活動および保護を提供するにあたって、最も重要である。

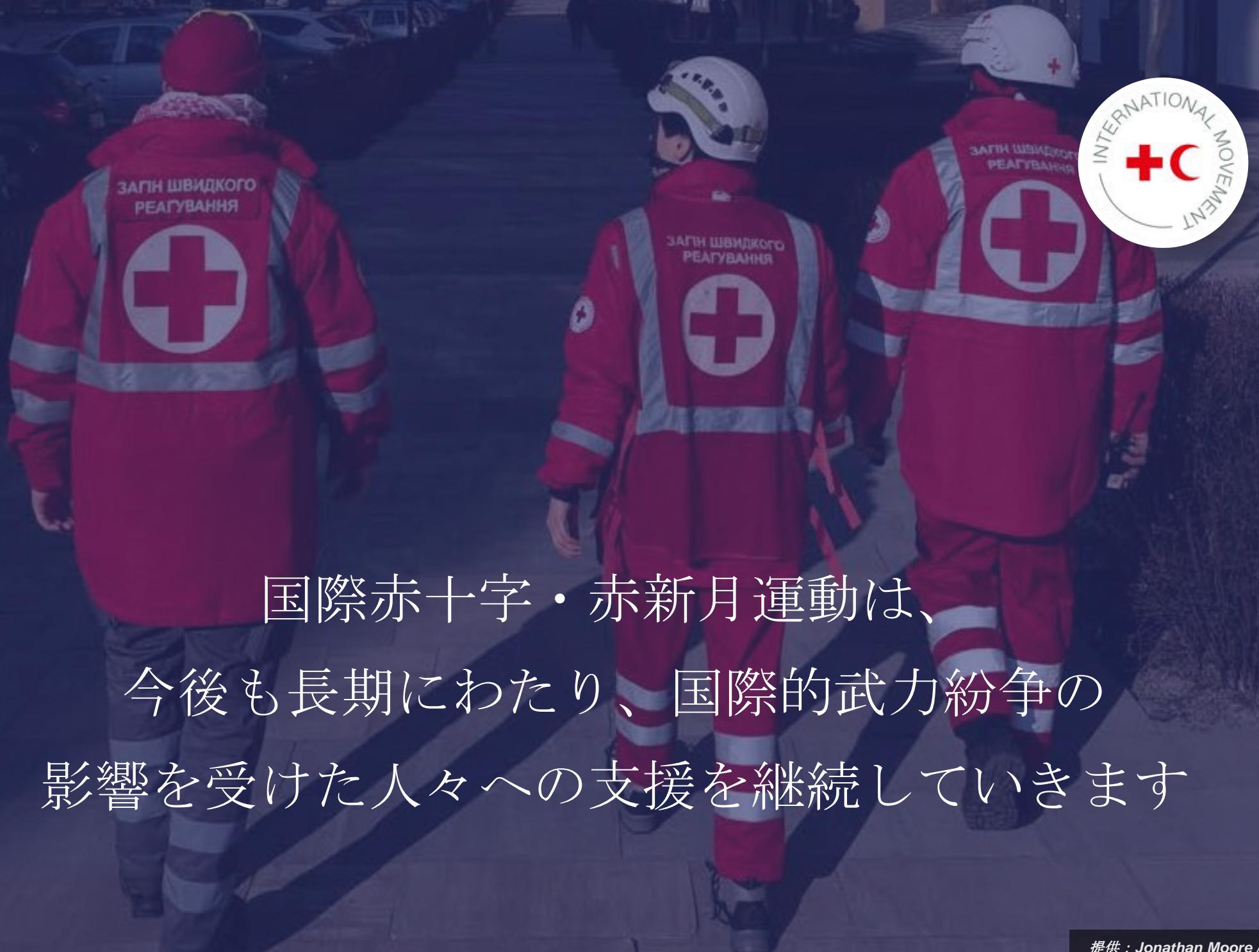
紛争の過酷な現実に直面する際、中立性と公平性は、我々が敵味方の区別なく影響を受けた人々のところに到達して支援を提供し、命を助けることを可能にする、不可欠なものである。

昨年、本運動の原則に基づき、ICRCは何千もの民間人に安全な避難経路を確保し、数百人の捕虜を訪問し、4,000世帯近い家族に行方不明の大切な人に関する情報を提供することができた。また、ウクライナ赤十字社と地元の赤十字チームを含む国際赤十字は、紛争の影響を受けた地域において人道支援を提供し、また暴力から逃れてきた人々が最終的にどの国に到達しても確実に人道支援を受けられるようにすることができた。

我々の原則、及び紛争当事者と直接的に人道的問題に取り組める立場によって、我々は他の組織が足を踏み入れることが困難であるような場所で、命を奪い、家族を引き離し、民間人に被害を与えていたる紛争の苦しみに向き合い、それを軽減するという目的を達成することができる。

我々のこれまでの経験によって、ウクライナであれ世界の他の地域における紛争であれ、中立性と公平性という原則が、我々のユニークな支援活動を可能にし、命を救うことを知っている。そのため、赤十字・赤新月運動は常に、どちらの味方ということではなく、武力紛争や暴力の影響を受けて苦しむ人々の味方なのである。





国際赤十字・赤新月運動は、
今後も長期にわたり、国際的武力紛争の
影響を受けた人々への支援を継続していきます